

MEJIRO UNIVERSITY ECO CAMPUS REPORT

エコキャンパスレポート 2013



目白大学・目白大学短期大学部



目白大学学長
佐藤 郡衛

目白学園では、「地球環境と低炭素社会への貢献」推進委員会を組織して、2011年4月公布の「目白学園環境宣言」並びに「目白学園環境行動計画」に基づき、全学的なエコキャンパスづくりの包括的な取り組みを推進してきました。そしてこの度、その成果を継承し、①「全学的エコキャンパスづくり」をテーマとする各種の環境教育研究活動を実施すること、②上記の諸活動について学内外への情報発信を行い、より広い認知をはかることを主たる目的として、目白大学・目白大学短期大学部「環境教育推進プロジェクト」を組織することになりました。

そこで本誌は、(新)目白大学・目白大学短期大学部「環境教育推進プロジェクト」の一環として、(旧)目白学園「地球環境と低炭素社会への貢献」推進委員会のもとで行われた2013年度の取り組みの成果をまとめ、本学学生、教職員をはじめ、地域や一般の方々に向けて情報発信することを目的として編集された「エコキャンパスレポート」です。皆様方の一層のご理解とご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

TOPICS [トピックス]

01 エコプロダクツ2013に出展

2013年12月12日～14日、東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2013」に本学が出展しました。エコプロダクツ展は日本最大級の環境展示会とあって、702社・団体が出展、16万9000人を越える来場者で賑わいました。目白大学のブースでは、「全学的エコキャンパスづくりへの提案」をキャッチフレーズに、最近の本学のハード・ソフト両面からのエコキャンパスづくりに関するパネルを展示、学生・教職員が全学を挙げた環境への取り組みや学科・ゼミのユニークなエコ活動について紹介しました。



目白大学の出展

02 私立大学環境保全協議会で講演

2014年3月10日・11日、早稲田大学を会場に「私立大学環境保全協議会・設立30周年記念式典」及び「第30回総会・研修研究会」が開催され、本学中期5カ年計画「地球環境と低炭素社会への貢献」推進委員会委員長の飛田満教授(地域社会学科)が「全学的エコキャンパスづくりに向けて—目白大学の取り組み—」と題する研修講演を行いました。講演では、目白大学の緑豊かなキャンパスと環境に優しいキャンパスをめざして草創期から手掛けられてきた様々なエコロジープランの紹介に続き、2011年4月の「目白学園環境宣言」公布以後、矢継ぎ早に実践されてきた諸活動について説明がなされました。環境データの開示、ピオトープの造成、ゴーヤの植栽、節電・省エネ対策、エコアクション・エココンテストの実施、学科やゼミにお



目白大学の講演

るユニークな環境授業、エコをテーマにした地域連携や人材育成、新宿エコワン・グランプリ受賞、環境報告書の発行など、「目白大学ならではの」全学を挙げたエコキャンパスづくりの取り組みが報告されました。

FACILITIES

環境のための設備

高効率空調機に更新

目白大学では「環境に優しいキャンパス」として、エネルギー使用の合理化・効率化を促進することによって、電気・ガスの使用量を削減し、二酸化炭素の排出量を削減するための省エネ設備の導入に、ここ数年間とりわけ意欲的に取り組んでいます。すでにLED照明、インバーター式蛍光灯、人感センサーのほか、ヒートポンプ式給湯

器、氷蓄熱システム等の導入も行っています。2013年度には、2012年度の新宿キャンパス7号館北側と岩槻キャンパス2号館の空調・照明機器に続いて、新宿キャンパス7号館南側の空調・照明機器と岩槻キャンパス1号館・体育館の空調・照明機器を高効率型(ガスヒートポンプ)に更新しました。



高効率空調機

目白大学の環境対策

省エネルギー対策

- ソーラーシステム
- 集中制御空調システム
- 高効率空調システム
- ヒートポンプ式給湯器
- 人感センサー

- 省エネ照明 (LED、インバーター式蛍光灯)
- 氷蓄熱システム
- 風力発電
- 目白学園電気予報

緑化対策

- 700種類以上の樹木管理
- 屋上緑化
- 緑のカーテン
- 透水性インターロッキング
- ピオトープ

省資源対策

- 再生紙の利用
- 天然石鹸の使用
- 空き缶回収装置
- 中水道システム

その他の対策

- ごみの分別
- 喫煙所以外の全面禁煙
- UVカット窓ガラス
- グラウンドの砂埃防止



太陽光発電



屋上緑化



中水道システム



緑のカーテン



ピオトープ

ECOアクションとは、学生自らが企画し実践する環境プロジェクトのこと。「環境問題という地球規模の問題に対して、私たちはどんなことができるでしょうか?地球のため、未来のため、どんな小さな取り組みでも構いません。足元から、今日から、なにか行動(アクション)を起こしましょう!」との呼びかけに対して、2013年度は6件の意欲的な応募がありました。その環境意識の高さや環境への貢献度が評価され採択された企画5件(1件はリタイア)を紹介します。桐和祭(学園祭)ではECOアクションの成果報告(中間報告)のパネル展示が行われました。

2013年度 採択企画一覧

1. 身近なエネルギー 電気を知る(児童教育学科 節電つづけ隊)
2. この木なんの木、気になる木プロジェクト 一樹木プレート制作(地域社会学科有志)
3. ごみの分別をよびかけるポスターづくり(地域社会学科 飛田ゼミ)
4. 捨ててキラキラ万華鏡ゴミ箱(目白エコプロジェクトクルー(MEPC) A班)
5. エコキャップ活動(目白研心中学校・高等学校 中高生徒会)



ごみの分別表



樹木プレート



万華鏡ゴミ箱

ECOコンテストとは、全学参加型「エコ意識」向上キャンペーンのこと。社会学部メディア表現学科河合ゼミのイニシアティブにより、毎年違ったテーマでエコ意識を競い合っています。2013年度は、「リユースあいであコンテスト」と題して、ペットボトルか紙パックを再利用して、使っていて便利なもの、「マネしてみたい!」と思えるようなもの、楽しくなるリユースアイデアを募集しました。応募総数は120点。その中から地域社会学科1年次生、臺奈津美

さん考案の「ペットボトルを再利用したコーヒードリッパー/油濾し器」が「最優秀賞」に選ばれました。僅差の「優秀賞」には「キャップすだれ」「おにぎりメーカー」「紙バック定期入れ」などユニークな作品5点が、さらに「入賞」として14点のアイデアが決まりました。桐和祭(学園祭)での表彰式には、受賞アイデアにもとづく試作品が制作・展示され、楽しい発想のかすかずに会場は盛り上がりました。



エココンテストのポスター



入賞者表彰式、河合良文教授と



入賞作品の展示、桐和祭で

地域社会学科「エコアクション&野口健講演会」

2013年6月6日、目白大学創立20周年プロジェクトの一環として、社会学部地域社会学科主催イベント「エコアクション&野口健講演会」が開催されました。講演のタイトルは「あきらめないこと、それが冒険だー富士山から日本を変えるー」。野口氏には自らの生い立ちから、初めてのエベレスト登山や、2000年より行っている富士山の清掃活動を始めた経緯や苦労などを、ユーモラスな語り口でお話いただきました。またこの日は会場入口付近で、「野口健が撮影した地球温暖化の状況写真展」「地域社会学科フィールドワーク・パネル展」「目白大学エコアクション・パネル展」も併せて開催されました。



地域社会学科講演会

子ども学科「子どもの育ちを考える～命とのかかわり」

2013年7月27日、人間学部子ども学科の創立10周年記念特別公開講座「子どもの育ちを考える～命とのかかわり」が開催されました。第1部では、旭川市旭山動物園の小菅正夫前園長をお招きし、「動物から学ぶ命の大切さ」という演題でお話いただきました。死はどんな動物にも平等に訪れる、動物たちの生き様から命について学ぶことが多くあるという、命の尊さについて深く考えさせられる内容でした。第2部では小菅氏に加えて、新宿こだま保育園の石田雅一園長、子ども学科の高橋弥生教授の3名で、「子どもが命に触れ合う意味」というテーマでパネルディスカッションが行われました。



子ども学科公開講座

那須でキャンプ実習(子どもと自然Ⅲ)

人間学部子ども学科では、専門教育科目「子どもと自然Ⅲ」の授業として、2013年8月6日～8日、栃木県那須塩原(太陽の丘農場跡地)にて、約50名の学生が参加して、キャンプ実習を行いました。電気もガスも水道設備もなく、トイレもない草だけが生い茂る山の中で、まず草を踏みならすことから始めて、テント張り、火おこし、飯ごう炊さん、星の観察、キャンプファイアーなど、さまざまな自然体験を経て、生命の大切さや環境保全の意味を学ぶ場を設けました。学生からは、日頃の生活のありがたさを実感するとの声も聞かれ、自然保護やエネルギーについて改めて考える機会にもなりました。



那須キャンプ合宿

尾瀬でトレッキング実習(スポーツ・健康)

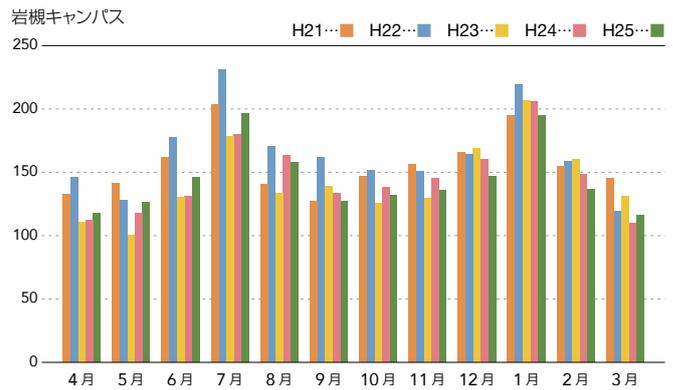
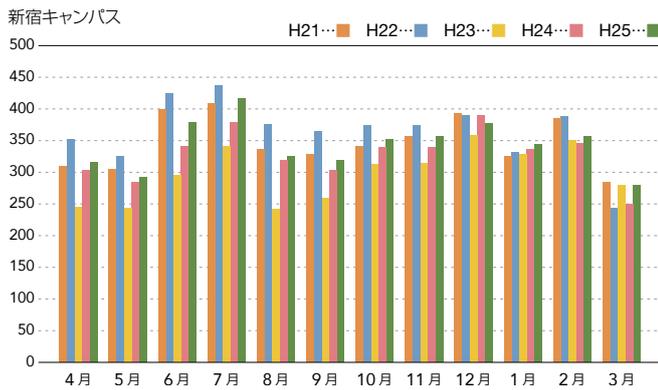
岩槻キャンパスでは、基礎教育科目「スポーツ・健康1・3」の集中講義として、2013年8月19日～21日、学生17名と教員3名の計20名が参加して、野外運動実習「尾瀬国立公園トレッキング」を行いました。尾瀬国立公園では貴重な植生保護のためゴミは持ち帰り、木道以外の立ち入りは禁止されています。またトイレの使用には、環境に優しい処理を行うため100円程度の環境整備費に協力します。3日間の活動を通して、快晴の美しい景色に感動する一方で、雨天での自然の厳しさにも触れて、学生たちは守るべき自然を存分に実感しました。エコへの関心も高まり、自然に触れる貴重な機会となりました。



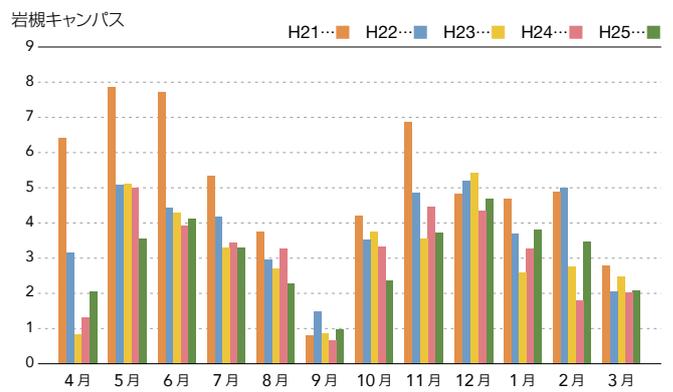
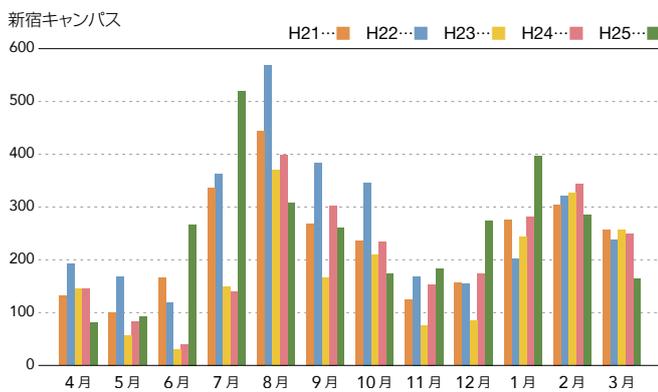
尾瀬トレッキング

環境負荷データ

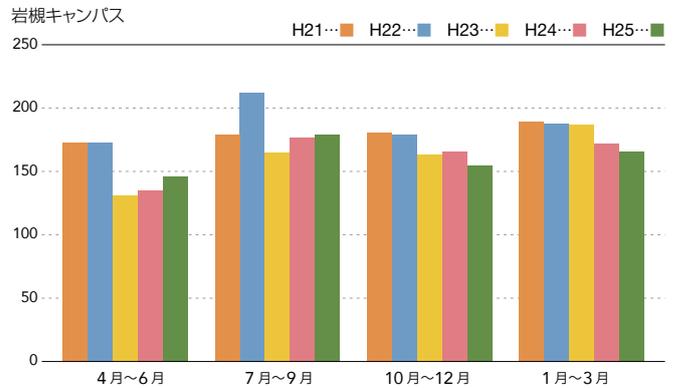
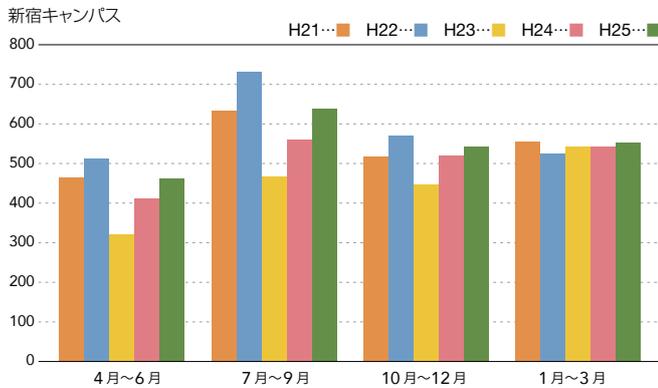
電気使用量 (単位:千kwh)



ガス使用量 (単位:百m³)



CO2排出量 (単位:t)



目白大学

■新宿キャンパス 東京都新宿区中落合4-31-1 TEL:03-5996-3117
 ■岩槻キャンパス 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320 TEL:048-797-2222
<http://www.mejiro.ac.jp>

設置者	学校法人目白学園(逸見博昌理事長)	
■目白大学	設立年	平成6年 目白大学設置
	学生数	6,122名
	設置学部・学科	人間学部 心理カウンセリング学科/人間福祉学科/子ども学科/児童教育学科 社会学部 社会情報学科/メディア表現学科/地域社会学科 経営学部 経営学科 外国語学部 英米語学科/中国語学科/韓国語学科/日本語・日本語教育学科 保健医療学部 理学療法学科/作業療法学科/言語聴覚学科 看護学部 看護学科
	大学院	国際交流研究科/心理学研究科/経営学研究科/生涯福祉研究科/言語文化研究科 看護学研究科/リハビリテーション学研究科
	■目白大学短期大学部	設立年 昭和38年 目白学園女子短期大学設置(平成12年 目白大学短期大学部に名称変更・改組)
		学生数 367名 設置学科 生活科学科/製菓学科/ビジネス社会学科



新宿キャンパス10号館



岩槻キャンパス1・2号館